

子ども・教育部会

平成 28 年 9 月 27 日
午後 6 時 30 分～
場所：すみのえ舞昆ホール

1 第 1 回区教育行政連絡会のご報告

小学校の部議事録

中学校の部議事録

2 平成 29 年度住之江区教育関係施策（案）について

（参考） 5 月 30 日子ども教育部会議事録

平成 29 年度住之江区教育関係施策（案）

プログラミング教育とは

スクールソーシャルワーカーとは

キャリア教育推進事業イメージ

3 その他

打合せ議事録

件名	平成 28 年度第 1 回区教育行政連絡会（小学校の部）
日時	7 月 6 日（水）11 時 30 分～12 時 15 分
場所	住之江区役所第 3 - 3 会議室
参加者	<p>敬称略・順不同</p> <p>【小学校長】粉浜小 栗田、安立小 佐藤、敷津浦小 荒木、加賀屋小 砂本、住吉川小 武部、北粉浜小 竹林、住之江小 木村、平林小 古山、加賀屋東小 立川、新北島小 藤本、南港光小 岡田、南港緑小 吉岡、南港桜小 岡井、南港渚小 谷、清江小 田中（全小学校長）</p> <p>【区役所】西原（区長）、安藤（副区長）、長船（課長）、森（係長）</p>
内容	<p>（ 5 月 30 日の子ども・教育部会の議事録に沿って長船より説明）</p> <p>（ 公設民営学校について長船より説明）</p> <p>【意見交換（来年度施策について）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した事業は、来年度すべて継続してもらえるのか。（粉浜 栗田） 年々増やしていくことはできない。どこかで増やせば、どこかを減らすことになる。 ・予算枠は増えないということか。（北粉浜 竹林） 現状維持はしたいと考えている。市全体の方向性はすべての予算にシーリングがかかっている。 ・学習サポート事業はありがたい。 ・不登校児・保健室登校児も増えており、対応が大変になっている（加賀屋東 立川） ・発達障がいサポート事業はありがたい。授業の中でも使えるなど、運用をもっと柔軟にしてほしい。（南港桜 岡井） 運用は教委が割と厳格にしている。柔軟な運用は難しいと考える。 ・それならば発達障がいサポの拡充をしてほしい。（南港桜 岡井） ・事業継続はお願いしたい。（南港渚 谷） ・発達障がいサポーターについて 校外学習等の付添いは日当（4,400）で交通費等も含まれる。 拘束時間で割り戻した場合に、時給との差が大きくなる。改善策をお願いした

い。(南港渚 谷)

・小学生から英語を！の流れになっている。英語をボランティアで教えてくれる方たちはいるので、その方たちに報酬を支払えるような仕組みがほしい。(南港桜 岡井)

・家まで遠いので学校が終わると、子どもたちは早く帰る。加賀屋塾のような事業があれば良い。校区内に学べる環境がなかなかない。塾に通っている子どもの数も、これまでの経験の中ではかなり少ない。(平林 古山)

・児童英検の受験をしたい。漢検を英検受験にかえられないか。(住之江 木村)
 ・国際交流イベントをしてほしい(例：現地とネットでつながる・ジャイカ・協力隊OB)(住之江 木村)

・国際色をだせるようなもの、区の特徴を教えたい。(例：図書館の本、音楽や映像など) 図書の充実は必要だと思う。(南港光 岡田)

・漢検は継続してほしい。(南港緑 吉岡)

・漢検と英検を選べるようにできないか。子どもの興味付けには検定の受験は良いと思う。(粉浜 栗田)

・スクールカウンセラーを毎週派遣してほしい。子や親で対応が必要なケースが増えており、隔週では追いつかない。(安立 佐藤)

・同じくスクールカウンセラー毎週ほしい。実は北粉浜の枠をもらったりしている。(粉浜 栗田)

【西原より】

・スクールカウンセラーや人の手当の必要性は認識している。
 ・学習意欲のある子どもを伸ばせるようにしたい。
 ・折角やる気が出ているのに、しんどいところに手がかかりすぎて、やる気のある子がおざなりになるのはもったいないと思う。

【長船より】

発達障がいサポーターの報酬について

・日当 4,400 円について

当初は、時給 850 円 × 4 時間 = 3,400 円

プラス経費として 1,000 円（交通費、入場料等）の合計 4,400 円で計算

4 時間の根拠はなし

2 時間程度の校外学習もあれば、6 ~ 7 時間程度の校外学習もある為、間を取った

- ・ 25 年度の幹事校長へ説明し、了承いただいている（26.4.1 要綱変更の為）
- ・ 来年度以降の要綱変更は要相談

打合せ議事録	
件名	平成 28 年度第 1 回区教育行政連絡会（中学校の部）
日時	7 月 25 日（月）17 時～18 時
場所	住之江区役所第 3 - 3 会議室
参加者	敬称略・順不同 【中学校長】 住吉第一 井川、加賀屋 鈴木、住之江 樋口、新北島 土谷、南港北 田代、南港南 高島 【区役所】 西原（区長）、安藤（副区長）、長船（課長）、森（係長）、上野
内容	<p>（ 5 月 30 日の子ども・教育部会の議事録に沿って長船より説明）</p> <p>（ 公設民営学校について長船より説明）</p> <p>（ 港湾局高橋理事からの依頼でクルーズ客船について長船より説明）</p> <p>（ 区教育行政連絡会（小学校の部）であがった意見を長船から口頭で情報提供）</p> <p>【西原より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校選択制について、「 区はこの制度をあまり使っていない」というような意見を耳にすることがあるが、個人的には、それで結構、と思っている。できる限り自分の校区の学校に行ってほしいという考えである。学校選択制が、自分の行く学校のことを知ろうとするきっかけになれば、と考えている。 ・学力の向上など、基本的には学校にお任せすべきだと考えている。区役所は、学校だけで解決することが難しく困っていることを支援したり、学ぶきっかけづくりをしたりしていきたい。 ・将来のイメージを持たず、なんのために学んでいるのかがわからない、といった子どももいると思う。そういう子どもにイメージを持たせるなど、キャリア教育にも協力していきたい。 ・できることは限りなくやっていく。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校設立に向けての増設工事が影響し、来年度は今年度よりさらに生徒数が減ると予測される。生徒数が増えると教員が増え、部活が増え、活気がでる。小中一貫校がはじまるまでの体制について、管理職として危惧するところがある。（南港南 高島） <p style="padding-left: 2em;">別の学校に行きたいという人を妨げることはできないが、「この学校に行きたい」と思わせる学校づくりを、地域と連携しながらしていく必要がある。（西原）</p>

・南港緑小、南港渚小への公設民営学校の設置について、決まったことのためやるしかないのだろうが、課題を整理する必要はある。(住吉第一 井川)

・(公設民営学校について)公募して、本当に事業者が見つかって設置されるかどうか分からない状況のため、南港はどうなってしまうのかと考える。うちの学校にも影響は出てくる。(南港北 田代)

今回の公設民営学校は、公立中学校と競合するものではないと考えている。「咲洲をよくするためには教育環境を整えるべき」という、前住之江区長の考えには賛成している。咲洲に住んでもらうきっかけになれば。(西原)

・市教委は「今回の公設民営学校でやる教育を、公立中学校に広げていく」と言っているが、それは違うと考える。特殊な形態の学校がその学校内で完結することは、咲くやこの花中高一貫校の例から想像できる。(住吉第一 井川)

・新たな学校の設置は街の活性化のきっかけにはなるかもしれないが、一方で、せせらぎを埋め立てるなど、今ある街の魅力を減らしているように感じる。(南港南 高島)

学校も街の魅力であると考えている。区役所として、今回の公設民営学校を南港へ誘致しないという手はなかった。都心の家賃が下がってきている中で南港の魅力を上げていくことは簡単ではないが、様々な手をつくしてまいりたい。(安藤)

・加賀屋塾には加賀屋中学校以外の生徒も来ているのか？(南港北 田代)

真住中学校、新北島中学校から参加生徒がいる。(長船)

・来年度以降、南港でも塾をやるのか。(南港北 田代)

今年度、加賀屋塾を成功させなければ、公募しても業者から手があがらない。様子を見て検討する。(長船)

・ICT機器がフリーズしてしまったりすると、授業が中断してしまう。ICT機器の扱いが得意な人に入ってもらえると、中断することなく、教員が集中して授業を行える。(住吉第一 井川)

ICT機器を導入した授業を見学したが、確かにうまく活用されていなかった。教員向けの研修が十分でなければ、うまく扱えない。良い意見だと思う。(西原)

・(ICT機器活用のための)研修はあるが、参加できないことも多い。1回や2回の研修では、最大限活用するためには少ない。常駐でなくても、得意な人に巡回してもらえないか。校内で教えてもらえるのが一番効果的。(住吉第一 井

川)

検討する。(西原)

打合せ議事録

件名	区政会議子ども・教育部会
日時	平成28年5月30日(月)19時20分～20時0分
場所	すみのえ舞昆ホール
参加者	(委員)門晶子委員、伊達美寿保委員、西山ルミ委員、藤本麻子委員 (区役所)長船、木村、上野
内容	<p>レジュメに沿って長船より平成27年施策の実施結果の報告、平成28年度事教育関係事業の連絡を行った。以下報告のポイント</p> <p>【1 平成27年度施策の実施結果報告について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭児童相談員を25年度から区独自予算で1名増員した結果、学校や保育所での面談件数が2.7倍になっており、有効に活用いただいている。 ・スクールカウンセラーは従来、各中学校へ週1で訪問していたが、区独自予算で増員し小学校へも隔週で訪問しており、計画的に相談できる体制を整えている。 ・漢検、英検は対象児童生徒の90%以上が受検、60%以上が合格している。 ・こども学習サポートの利用率が90.3%と100%には届かない結果となったが、一方で複数校から派遣時間を増やしてほしいとの声があがっている。今年度は運用方法を見直して利用率100%に近づける。 <p>【2 平成28年度教育関係事業一覧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども学習サポート事業、漢検(小・中学生の学習意欲向上事業)、英検(中学生の英語力向上支援)は派遣時間や対象を拡充している。 ・発達障がいサポート事業、家庭児童相談運営、スクールカウンセラー事業は27年度から大きな変更なく引き続き行う。 ・南港南中学校に27年度から導入しているe-ラーニングは引き続き行う。学校側からは、生徒の自主学習促進や英語力の向上に効果ありと報告あり。 ・新規事業として、加賀屋中学校で民間事業者が塾を開講する「住之江区基礎学力アップ事業(加賀屋塾)」、平林小学校と住之江小学校で辞書引き学習を行う「小学生の国語力向上事業」を行う。 <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加賀屋中学校での塾について、しんどい子が自分から参加しようと手をあげるとは思えないが大丈夫なのか。(門委員) 三者面談などのタイミングで教員から生徒へ参加を勧めるなど、学校に協力いただいで効果的な周知をしていく。周知までは学校に協力いただくが、事業そのものは学校とは切り離す。(長船)

- ・小学生の国語力向上事業について、導入したはいいものの継続的に活用されるのか疑問。(門委員)

対象校の校長の要望で導入しているものであり、積極的に活用されると想定している。南港光小学校に導入した例を見ると、児童それぞれが自主的に活用しており、同様の状態になると期待している。(長船)

29年度教育関係施策の方針について

- ・引き続き学力向上を目指す施策を行ってほしい。(藤本委員)
- ・学力向上も続けてほしいが、最近のこどもは精神的に不安定なこどもが多いように感じるため、メンタル面のフォローも手厚くしてほしい。(伊達委員)
家庭児童相談員担当の職員へ要望あった旨を伝える。しかし、家庭児童相談員は給与面の課題があり、増員が難しい状況である。(長船)
- ・テストに直結するような事業よりも、こどもが学ぶことを楽しいと感じられるような事業を行ってほしい。例えば、今年度行う辞書引き学習や、朝の読書など。漢検や英検はいいけれども、せっかく校長経営戦略支援予算の区長執行枠ができたのなら、この枠は楽しく学べる事業を行ってほしい。(門委員)
- ・障がいや、なにか課題のあるこどもが対象と思われる学童保育のような施設が増えているように感じる。こういった施設を必要とする家庭が増えているということなのだと思う。(門委員)
- ・学習環境の改善という意味で、中学校給食の親子方式を早く進めてほしい。(門委員)
来年度は区内中学校の半分強は親子方式に変えられると思う。(長船)

来年度も引き続きこどもの学力向上と学習環境の整備を行う。テストに直結するような事業のみにとらわれず、事業内容を模索する。

平成 29 年度住之江区教育関係施策（案）

	事業名	事業概要	28 年度 当初	29 年度 予定
区まちづくり 推進費	こども学習サポート事業	長期休暇や放課後の全小・中学校に学習指導員を派遣し、学習習慣を定着させることで学力の向上を図る。 (H28)派遣時間 1 校当たり 104 時間	6,932	
	小・中学生の学習意欲向上事業	全小学校及び中学校 4 校を対象に漢検合格を目指す。 (H28)全小学校の 1 学年 + 7 小学校のもう 1 学年、4 中学の 1 学年	3,471	
	中学生の英語力向上支援	全中学校の 1 年生もしくは 2 年生を対象に英検合格を目指す。 (H28)全中学校の 1 年生もしくは 2 年生 + 南港北中のもう 1 学年	1,406	
	発達障がいサポート事業	全小・中学校を対象に、発達障がい等によりサポートの必要な児童生徒に対し、教員の指示のもと、登下校や放課後等の課外活動の補助、校外学習等の付き添い等を行う。	5,171	
区 C M 自由経費	家庭児童相談運営費	専門知識を有する相談員を非常勤嘱託職員として区役所へ配置し、相談指導や要保護児童の調査等を行う。(区独自で 1 名増員)	8,813	
	スクールカウンセラー事業	全小・中学校へカウンセラーを配置・定期訪問し、児童生徒の心のケアや保護者の悩み相談、教職員へのアドバイスを行う。	12,740	

	事業名	事業概要	28 年度 当初	29 年度 予定
校長経営戦略 支援予算 （区担当教育 次長執行枠）	小中一貫校設立に向けた 特色ある教育環境づくり事業	30 年度に小中一貫校（南港緑小・南港渚小・南港南中）の開校を 予定している南港南中学校に特色ある教育の一環として、e-ラー ニング教材を取り入れ学力の向上を図る。29 年度は新たに、3 校 に小中一貫して行えるプログラミング教材を導入する。	1,944	2,041
	住之江区基礎学力 アップ事業	放課後の中学校校舎で、民間の塾事業者等との連携により、課外 授業を行なう。 (H28)場所は加賀屋中学校、対象は区内全中学生。	1,716	58 (1)
	小学生の国語力向上事業	7 つの小学校へ国語辞典を導入し、自主学習の時間等に児童自身 が言葉を調べ、豊かな語彙力をつけるとともに、疑問に思ったこ とを調べる習慣をつけることで、総合的な国語力の向上を図る。	1,140	- (2)
	【新】スクールソーシャル ワーカー派遣事業(仮称)	福祉関係のコーディネートを行うスクールソーシャルワーカー を小・中学校へ派遣し、関係機関との連携強化を図る。	-	1,899
	【新】キャリア教育推進事業 (仮称)	JOCA（青年海外協力協会）と連携し、日本とは異なる文化に触 れ、考え、理解する機会を提供する。	-	799
	校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）合計			4,800

(単位：千円)

- (1) 事業は継続する。初年度は施設整備費と選定委員への講師謝礼金を計上。29 年度からは選定委員への謝礼金のみ計上。
- (2) 初年度は辞書引き学習のきっかけづくりとして本予算で導入。

3. 学校教育におけるプログラミング教育の在り方とは

(1) コンピュータと人間に関する展望と、時代を超えて求められる力

○ 私たちは現在でも、自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中で意識せずとも、様々なものに内蔵されたコンピュータとプログラミングの働き之恩恵を受けている。このような人間とコンピュータとの関係は、人工知能の急速な進化等に伴い、今後ますます身近なものとなってくると考えられる。

○ そうした生活の在り方を考えれば、子供たちが、便利さの裏側でどのような仕組みが機能しているのかについて思いを巡らせ、便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであり、人間の叡智が生み出したものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。

○ 学校教育、特に義務教育段階は、子供たちが将来どのような職業に就くとしても普遍的に求められる資質・能力を育んでいくことが求められる。社会の変化を踏まえた時代の要請を、教育がどのように受け止めていくかを議論する際には、目の前の変化に柔軟に対応しつつ、長期的な視野も持ちながら、子供たちに時代を超えて普遍的に求められる資質・能力とは何かを見極めていくことが重要である。

○ 特定の技術や個別のプログラミング言語については、時代の変化や技術革新の中で移り変わっていくことが予測される。ここ十～数十年の間において、プログラミング言語が果たす役割が大きく変わるわけではないが、将来的には、私たちが日常的に用いる自然言語で論理的に書いたり話したりすることで、コンピュータに指示できるようになるのではないかと、との予測もある。

○ 仮にそのような時代になったとしても、社会でコンピュータが果たす役割を理解しながら、「プログラミング的思考」を発揮し、その時代の情報技術を効果的に活用して問題を発見・解決していくことの重要性は変わらないものと考えられる。子供たちには、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら^[4]、時代を超えて必要となる資質・能力を、発達の段階に即して身に付けていくことが求められる。

(2) 学校教育として実施するプログラミング教育は何を目指すのか

○ 学校教育におけるプログラミング教育の在り方については、上記のようなコンピュータとの関係に関する見通しを持ちながら、上記2に記したような資質・能力の在り方(特に「プログラミング的思考」の在り方)を踏まえつつ、子供たちに求められる普遍的な力とは何かを明確にし、認識の共有を図っていく必要がある。その際、次期学習指導要領に向けては、現代的なテーマに焦点化した教育も含め、どのよ

うな資質・能力の育成を目指すのかを三つの柱(1)何を理解しているか、何ができるか(知識・技能)、(2)理解していること、できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力)、(3)どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等))で整理していくとされていること等に留意することが必要である。

○ プログラミング教育とは、子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、発達段階に即して、次のような資質・能力を育成するものであると考えられる。

【知識・技能】

(小)身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

(中)社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できるようにすること。

(高)コンピュータの働きを科学的に理解するとともに、実際の問題解決にコンピュータを活用できるようにすること。

【思考力・判断力・表現力等】

・ 発達の段階に即して、「プログラミング的思考」(自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力)を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】

・ 発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

[4]体験する中で、コンピュータによる処理と人間の活動それぞれのよさに気付くことなども重要と考えられる。

[5]いわゆる「コンピューショナル・シンキング」の考え方を踏まえつつ、プログラミングと論理的思考との関係を整理しながら提言された定義である。

(3)発達の段階に即した資質・能力の育成

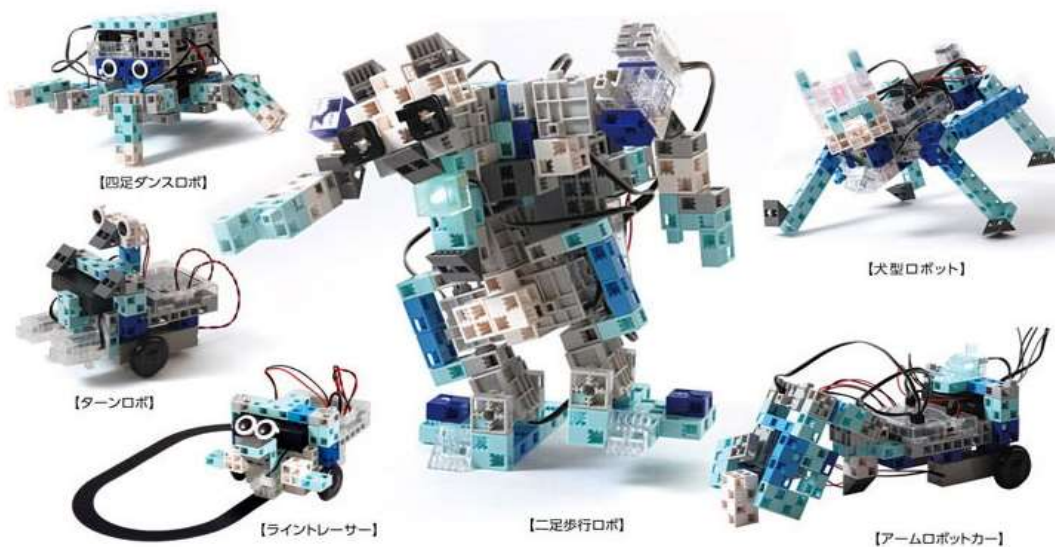
○ 中学校及び高等学校では、それぞれの学校段階における子供たちの抽象的思考の発達に応じて、構造化された内容を体系的に教科学習として学んでいくこととなる。中学校では技術・家庭科において、高等学校では情報科において学ぶこととなるが、現在、中央教育審議会においては、中学校及び高等学校におけるプログラミング教育の充実についても議論されている。

○ 具体的には、中学校技術・家庭科技術分野の「情報に関する技術」において、計測・制御に関するプログラミングだけでなく、コンテンツに関するプログラミングを指導内容に盛り込むことによって、プログラミングに関する内容を倍増させること、高等学校情報科に共通必修科目を新設し、全ての高校生[6]がプログラミングを問題解決に活用することを学べるようにすることが検討されている。



←↓プログラミング教材例

思い通りの形を思い通りに動かす 無限大のロボット造形が可能に



サーボモーターやセンサーなどと接続し、プログラミングした動きを再現できます。



アイコンを使った簡単な設定で、様々な動きをプログラミング。本物のロボットを作る楽しさを味わえます。